

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信 / 海外 / 債券	
信託期間	2024年11月15日まで (2014年12月11日設定)	
運用方針	欧州債券マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として欧州主要国(ユーロ参加国)の公社債に投資を行います。シティEMU国債インデックス(円ベース)をベンチマークとし、これを中長期的に上回る投資成果をめざします。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。エクスポージャーのコントロール等を目的として為替予約取引等を活用する場合があります。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要運用対象	ベビーファンド	欧州債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	欧州主要国(ユーロ参加国)の公社債を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーファンド	外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
	マザーファンド	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。なお、第2計算期末までの間は、収益の分配は行いません。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。  
 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」の適用対象です。  
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## 三菱UFJ 欧州債券ファンド <為替ヘッジなし> (毎月決算型)

愛称：ヨーロッパ・トップ ヘッジなし



- 第1期 (決算日：2015年1月15日)
- 第2期 (決算日：2015年2月16日)
- 第3期 (決算日：2015年3月16日)
- 第4期 (決算日：2015年4月15日)
- 第5期 (決算日：2015年5月15日)



### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、お手持ちの「三菱UFJ 欧州債券ファンド <為替ヘッジなし> (毎月決算型) (愛称：ヨーロッパ・トップ ヘッジなし)」は、去る5月15日に第5期の決算を行いましたので、法令に基づいて第1期～第5期の運用状況をまとめてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

三菱UFJ投信株式会社は2015年7月1日に国際投信投資顧問株式会社と合併し、「三菱UFJ国際投信株式会社」となる予定です。



東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 URL:<http://www.am.mufig.jp/>

本資料の記載内容に関するお問い合わせ先  
 営業企画推進部 TEL. 0120-151034  
 お客様専用フリーダイヤル (9:00~17:00, 土・日・祝日・12月31日~1月3日を除く)  
 お客様のお取引内容につきましては、お取り扱いの販売会社にお尋ねください。

# ◆ 目 次

## 三菱UFJ 欧州債券ファンド<為替ヘッジなし> (毎月決算型) のご報告

◇設定以来の運用実績	1
◇当作成期中の基準価額と市況等の推移	2
◇運用経過	3
◇今後の運用方針	7
◇1万口当たりの費用明細	8
◇売買及び取引の状況	9
◇利害関係人との取引状況等	9
◇自社による当ファンドの設定・解約状況	9
◇組入資産の明細	10
◇投資信託財産の構成	10
◇資産、負債、元本及び基準価額の状況	11
◇損益の状況	12
◇分配金のお知らせ	13
◇お知らせ	13

## マザーファンドのご報告

◇欧州債券マザーファンド	14
--------------	----

## 本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

## ○設定以来の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	標準価額			シティEMU国債インデックス (円ベース)		債券組入比率	債券先物比率	純資産総額
		税分	込配	み騰	期騰	落			
(設定日)	円								百万円
2014年12月11日	10,000				244.93	—	—	—	10
1期(2015年1月15日)	9,612			—	232.75	△5.0	95.2	—	10
2期(2015年2月16日)	9,515			—	231.50	△0.5	96.2	—	18
3期(2015年3月16日)	9,238			10	222.53	△3.9	93.5	—	22
4期(2015年4月15日)	9,163			10	222.29	△0.1	92.2	—	28
5期(2015年5月15日)	9,302			10	227.41	2.3	96.7	—	29

(注) 信託約款の規定にしたがい、第2期までの収益分配は行っていません。

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) シティEMU国債インデックス(円ベース)は、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、EMU(経済通貨同盟)参加国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

(注) 外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率-売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

## ○当作成期中の基準価額と市況等の推移

決 算 期	年 月 日	基 準 価 額		シティEMU国債インデックス (円ベース)		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率
		騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
第 1 期	(設定日) 2014年12月11日	円 10,000	% —	% —	244.93	—	—
	12月末	10,023	0.2	0.1	245.23	95.1	—
	(期 末) 2015年1月15日	9,612	△3.9	△5.0	232.75	95.2	—
第 2 期	(期 首) 2015年1月15日	9,612	—	—	232.75	95.2	—
	1月末	9,383	△2.4	△1.9	228.31	96.0	—
	(期 末) 2015年2月16日	9,515	△1.0	△0.5	231.50	96.2	—
第 3 期	(期 首) 2015年2月16日	9,515	—	—	231.50	96.2	—
	2月末	9,492	△0.2	△0.3	230.79	96.0	—
	(期 末) 2015年3月16日	9,248	△2.8	△3.9	222.53	93.5	—
第 4 期	(期 首) 2015年3月16日	9,238	—	—	222.53	93.5	—
	3月末	9,377	1.5	1.6	226.06	92.2	—
	(期 末) 2015年4月15日	9,173	△0.7	△0.1	222.29	92.2	—
第 5 期	(期 首) 2015年4月15日	9,163	—	—	222.29	92.2	—
	4月末	9,371	2.3	2.9	228.72	93.9	—
	(期 末) 2015年5月15日	9,312	1.6	2.3	227.41	96.7	—

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首（設定日）比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み合わせるので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

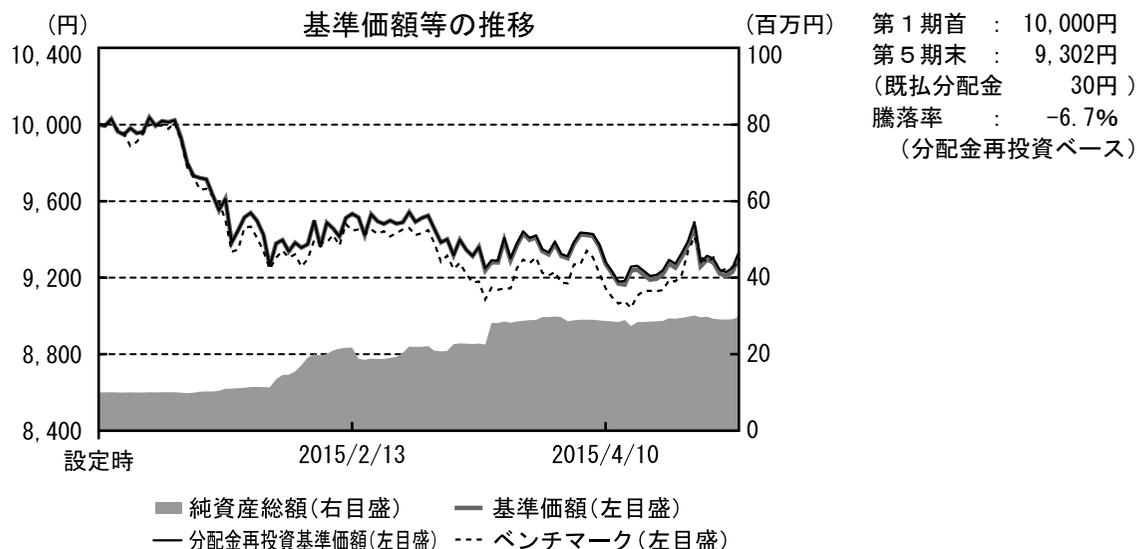
(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

## 運用経過

当作成期中の基準価額等の推移について

(第1期～第5期：2014/12/11～2015/5/15)

基準価額の動き	基準価額は設定時に比べ6.7% (分配金再投資ベース) の下落となりました。
ベンチマークとの差異	ファンドの騰落率はベンチマークの騰落率 (7.2%) の下落を0.5%上回りました。

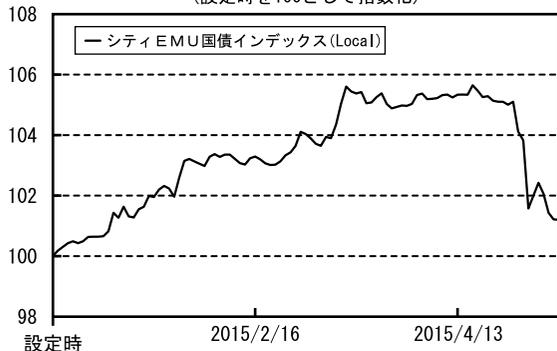
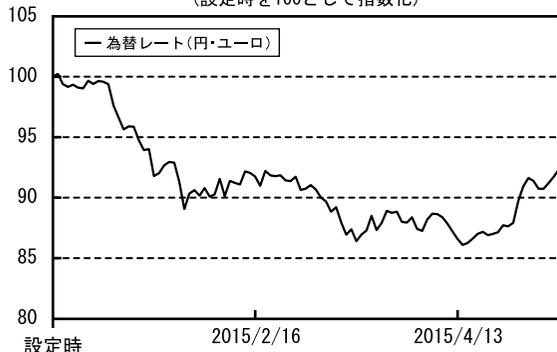


- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

## 基準価額の変動要因

上昇要因	債券利子収益を享受した他、欧州長期金利が低下(債券価格は上昇)したことなどは上昇要因となりました。
下落要因	ユーロが対円で下落したことなどが下落要因となりました。

## 投資環境について

債券市況の推移  
(設定時を100として指数化)為替市況の推移  
(設定時を100として指数化)

(第1期～第5期：2014/12/11～2015/5/15)

## ◎債券市況

- ・欧州長期金利は小幅低下しました。2015年1月のECB（欧州中央銀行）理事会で国債買取りを中心とした資産購入プログラムが決定されたことなどから長期金利は低下し、ドイツの長期金利は一時過去最低水準を更新しました。その後、2015年4月下旬に発表されたドイツの消費者物価指数が市場予想を上回ったことや3月のユーロ圏民間部門向け融資が3年ぶりに前年比プラスに転じたことなど、ユーロ圏で物価が上昇しつつある兆候が見られたことなどから長期金利は大幅に上昇しました。

## ◎為替市況

- ・ユーロは対円で下落しました。域内のデイスインフレリスクの台頭やECBによる前記資産購入プログラムの決定などから円に対して下落しました。

## 当該投資信託のポートフォリオについて

## &lt;三菱UFJ 欧州債券ファンド&lt;為替ヘッジなし&gt; (毎月決算型) &gt;

当ファンドは欧州債券マザーファンド受益証券を通じて、欧州主要国（ユーロ参加国）の公社債に投資しました。

当作成期は、債券利子収益を享受した他、欧州長期金利が低下したことなどは上昇要因となりましたが、ユーロが対円で下落したことなどが下落要因となり、下落要因が上昇要因を上回ったため基準価額（分配金再投資ベース）は下落しました。

## &lt;欧州債券マザーファンド&gt;

基準価額は設定時に比べ5.9%の下落となりました。

- ・ 欧州主要国（ユーロ参加国）の公社債を主要投資対象とし、ベンチマークを中長期的に上回る投資成果をめざして運用を行い、作成期を通じて債券の組入比率は90%以上で推移させ、当作成期末は96.9%としました。
- ・ 作成期を通じて、金利低下を見込み債券デュレーション（平均回収期間や金利感応度）をベンチマーク比長めで維持したほか、周辺国の景気・金融両面の安定から周辺国国債のドイツ国債に対するスプレッド（利回り格差）が縮小すると判断し、イタリア、スペイン、アイルランドをオーバーウェイト（投資比率を基準となる配分比率より多くすること）しました。
- ・ 当作成期は、ユーロが対円で下落したことなどにより、基準価額は下落しました。

(ご参考)

利回り・デュレーション(平均回収期間や金利感応度)

作成期末(2015年5月15日)

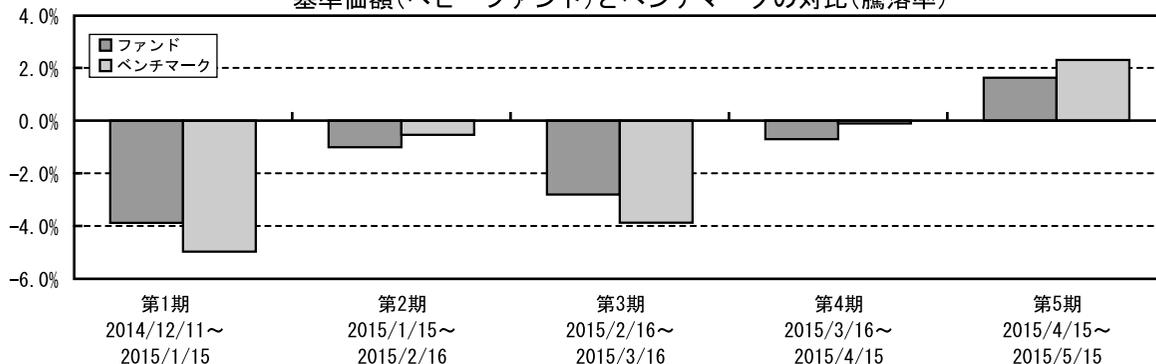
最終利回り	1.3%
直接利回り	2.9%
デュレーション	8.1年

- ・ 数値は債券現物部分で計算しております（先物は考慮しておりません）。
- ・ 最終利回りとは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。
- ・ 直接利回りとは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
- ・ 利回りは、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
- ・ デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

## 当該投資信託のベンチマークとの差異について

(第1期～第5期 : 2014/12/11～2015/5/15)

基準価額(ペビーファンド)とベンチマークの対比(騰落率)



・ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

## &lt;三菱UFJ 欧州債券ファンド&lt;為替ヘッジなし&gt; (毎月決算型) &gt;

当作成期の基準価額騰落率は、6.7%の下落となり、ベンチマークであるシティEMU国債インデックス(円ベース)の7.2%の下落を0.5%上回りました。

実質的な運用を行っているマザーファンドの騰落率はベンチマークを1.3%上回っており、信託報酬等のコスト控除後もベンチマークを上回りました。

## &lt;欧州債券マザーファンド&gt;

当作成期の基準価額騰落率は、ベンチマークであるシティEMU国債インデックス(円ベース)の7.2%の下落を1.3%上回りました。

## (プラス要因)

- ・作成期中、ECBが景気や物価の下振れリスクに対応して、金融緩和姿勢を維持した結果、欧州での債券デレートをベンチマーク比長めで維持したことがプラス要因となりました。
- ・周辺国の景気・金融両面の安定から周辺国国債のドイツ国債に対するスプレッドが縮小したため、ベンチマーク比でイタリア、スペイン、アイルランドをオーバーウェイト、ドイツ、フランス、オランダなどをアンダーウェイト(投資比率を基準となる配分比率より少なくすること)で維持したことがプラス要因となりました。

## 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益(留保益)につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

## 【分配原資の内訳】

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第3期	第4期	第5期
	2015年2月17日～ 2015年3月16日	2015年3月17日～ 2015年4月15日	2015年4月16日～ 2015年5月15日
当期分配金	10	10	10
(対基準価額比率)	0.108%	0.109%	0.107%
当期の収益	3	10	10
当期の収益以外	6	—	—
翌期繰越分配対象額	32	38	51

(注) 信託約款の規定にしたがい、第2期までの収益分配は行っていません。

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

&lt;三菱UFJ 欧州債券ファンド&lt;為替ヘッジなし&gt; (毎月決算型) &gt;

## ◎今後の運用方針

- ・ 欧州債券マザーファンド受益証券の組入比率を高位に保ち、マザーファンドのポートフォリオの構成に近づけた状態を維持する方針です。

&lt;欧州債券マザーファンド&gt;

## ◎運用環境の見通し

- ・ ECBが国債買取りを中心とした資産購入プログラムを開始したことにより、周辺国を中心に実質金利の低下や債券の期間プレミアム低下によって長期主導で金利が低下するものと考えています。為替市場では、日銀は「物価安定の目標」の実現に向けて、引き続き強力な金融緩和姿勢をもって臨むものと思われるため、ユーロは対円で概ね堅調に推移すると考えます。

## ◎今後の運用方針

- ・ 前記の運用環境の見通しに基づき、金利戦略においては、長期金利への影響が大きい景気その他の諸条件を考慮し、デュレーションなどのコントロールを行います。また、欧州各国の財政状況や政治動向、政策対応などを重視した国・銘柄選別に注力します。債券の組入比率は高位を維持し、国債中心の組み入れを維持する方針です。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2014年12月11日～2015年5月15日)

項 目	第 1 期～第 5 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 48	% 0.508	(a) 信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(24)	(0.255)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	(22)	(0.230)	分配金・償還金・換金代金支払等の事務手続き、交付運用報告書等の送付、購入後の説明・情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 2 )	(0.023)	投資信託財産の保管・管理、運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	12	0.128	(b) その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	( 2 )	(0.024)	外国での資産の保管等に要する費用
( 監 査 費 用 )	( 0 )	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
( そ の 他 )	(10)	(0.102)	信託事務の処理等に要するその他諸費用(取引主体識別コードの登録(更新)手数料(固定額)に対し、ファンド規模が小さいため、金額・比率とも大きく表示されています。)
合 計	60	0.636	
作成期中の平均基準価額は、9,529円です。			

(注) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2014年12月11日～2015年5月15日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	第1期～第5期			
	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
欧州債券マザーファンド	千口 38,789	千円 37,123	千口 7,160	千円 6,777

○利害関係人との取引状況等

(2014年12月11日～2015年5月15日)

利害関係人との取引状況

<三菱UFJ 欧州債券ファンド<為替ヘッジなし> (毎月決算型) >  
該当事項はございません。

<欧州債券マザーファンド>

区分	第1期～第5期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
為替直物取引	百万円 1,073	百万円 93	% 8.7	百万円 -	百万円 -	% -

平均保有割合 2.2%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行です。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

設定時残高(元本)	当作成期設定元本	当作成期解約元本	作成期末残高(元本)	取引の理由
百万円 10	百万円 -	百万円 -	百万円 10	当初設定時における取得

## ○組入資産の明細

(2015年5月15日現在)

## 親投資信託残高

銘柄	第5期末	
	口数	評価額
欧州債券マザーファンド	千口 31,628	千円 29,755

マザーファンドの組入資産の明細につきましては、マザーファンド頁をご参照ください。

## ○投資信託財産の構成

(2015年5月15日現在)

項目	第5期末	
	評価額	比率
欧州債券マザーファンド	千円 29,755	% 99.6
コール・ローン等、その他	133	0.4
投資信託財産総額	29,888	100.0

(注) 欧州債券マザーファンドにおいて、作成期末における外貨建純資産 (1,016,481千円) の投資信託財産総額 (1,474,875千円) に対する比率は68.9%です。

(注) 外貨建資産は、作成期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、作成期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 ユーロ=136.14円			
---------------	--	--	--

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第1期末	第2期末	第3期末	第4期末	第5期末
	2015年1月15日現在	2015年2月16日現在	2015年3月16日現在	2015年4月15日現在	2015年5月15日現在
	円	円	円	円	円
(A) 資産	10,936,494	21,718,469	22,537,020	28,982,914	29,888,995
コール・ローン等	38,588	85,249	73,413	655,157	100,288
欧州債券マザーファンド(評価額)	10,897,906	18,674,001	22,438,921	28,294,223	29,755,908
未収入金	—	2,959,219	24,686	33,534	32,799
(B) 負債	11,786	3,007,640	43,429	59,534	60,641
未払収益分配金	—	—	24,349	31,565	32,067
未払解約金	—	2,990,996	—	—	—
未払信託報酬	11,748	16,590	19,019	27,875	28,475
その他未払費用	38	54	61	94	99
(C) 純資産総額(A-B)	10,924,708	18,710,829	22,493,591	28,923,380	29,828,354
元本	11,365,632	19,665,491	24,349,388	31,565,933	32,067,883
次期繰越損益金	△ 440,924	△ 954,662	△ 1,855,797	△ 2,642,553	△ 2,239,529
(D) 受益権総口数	11,365,632口	19,665,491口	24,349,388口	31,565,933口	32,067,883口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,612円	9,515円	9,238円	9,163円	9,302円

## ○損益の状況

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
	2014年12月11日～ 2015年1月15日	2015年1月16日～ 2015年2月16日	2015年2月17日～ 2015年3月16日	2015年3月17日～ 2015年4月15日	2015年4月16日～ 2015年5月15日
	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	—	—	6	—	4
受取利息	—	—	6	—	4
(B) 有価証券売買損益	△382,722	58,273	△ 559,825	△ 200,866	478,919
売買益	6	73,504	14,632	6,692	486,879
売買損	△382,728	△ 15,231	△ 574,457	△ 207,558	△ 7,960
(C) 信託報酬等	△ 11,786	△ 16,644	△ 40,680	△ 27,969	△ 28,574
(D) 当期損益金(A+B+C)	△394,508	41,629	△ 600,499	△ 228,835	450,349
(E) 前期繰越損益金	—	△340,181	△ 269,627	△ 860,984	△1,027,734
(F) 追加信託差損益金	△ 46,416	△656,110	△ 961,322	△1,521,169	△1,630,077
(配当等相当額)	( — )	( 14,471)	( 48,483)	( 79,776)	( 93,878)
(売買損益相当額)	(△ 46,416)	(△670,581)	(△1,009,805)	(△1,600,945)	(△1,723,955)
(G) 計(D+E+F)	△440,924	△954,662	△1,831,448	△2,610,988	△2,207,462
(H) 収益分配金	—	—	△ 24,349	△ 31,565	△ 32,067
次期繰越損益金(G+H)	△440,924	△954,662	△1,855,797	△2,642,553	△2,239,529
追加信託差損益金	△ 46,416	△656,110	△ 961,322	△1,521,169	△1,630,077
(配当等相当額)	( 1,652)	( 27,862)	( 55,758)	( 89,215)	( 97,562)
(売買損益相当額)	(△ 48,068)	(△683,972)	(△1,017,080)	(△1,610,384)	(△1,727,639)
分配準備積立金	13,381	41,736	22,441	32,636	68,210
繰越損益金	△407,889	△340,288	△ 916,916	△1,154,020	△ 677,662

(注) (B) 有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## &lt;注記事項&gt;

- ① 設定元本額 10,000,000円  
  作成期中追加設定元本額 31,334,681円  
  作成期中一部解約元本額 9,266,798円
- ② 純資産総額が元本額を下回っており、その差額は2,239,529円です。
- ③ 分配金の計算過程

		第3期	第4期	第5期
費用控除後の配当等収益額	A	9,097円	42,600円	70,366円
費用控除後・繰越欠損金補填後の 有価証券売買等損益額	B	—円	—円	—円
収益調整金額	C	55,758円	89,215円	97,562円
分配準備積立金額	D	37,693円	21,601円	29,911円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	102,548円	153,416円	197,839円
当ファンドの期末残存口数	F	24,349,388口	31,565,933口	32,067,883口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	42円	48円	61円
1万口当たり分配金額	H	10円	10円	10円
収益分配金額	I=F*H/10,000	24,349円	31,565円	32,067円

## ○分配金のお知らせ

	第3期	第4期	第5期
1万円当たり分配金 (税込)	10円	10円	10円

(注) 信託約款の規定にしたがい、第2期までの収益分配は行っていません。

◆分配金は各決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

◆分配金を再投資される方のお手取分配金は、各決算日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。

◆課税上の取り扱い

- ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」に分かれます。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金(特別分配金)が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・個人受益者が支払いを受ける収益分配金のうち普通分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%)の税率で源泉徴収(申告不要)されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

※2014年1月1日より、少額投資非課税制度「愛称：NISA(ニーサ)」がご利用になります。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。

\*三菱UFJ投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ(<http://www.am.mufg.jp/>)をご覧ください。

### 【お知らせ】

2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%(法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。))の税率が適用されます。

## 欧州債券マザーファンド

### 《第1期》決算日2015年5月15日

〔計算期間：2014年12月11日～2015年5月15日〕

「欧州債券マザーファンド」は、5月15日に第1期の決算を行いました。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第1期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	主として欧州主要国（ユーロ参加国）の公社債に投資を行います。シティEMU国債インデックス（円ベース）をベンチマークとし、これを中長期的に上回る投資成果をめざします。運用にあたっては、マクロ分析や金利予測に基づいて、デュレーションおよび残存構成のコントロール、利回り較差に着目した銘柄選定でアクティブに超過収益の獲得をめざします。さらに、ポートフォリオとベンチマークを比較分析することにより、リスクのチェックとコントロールを行います。エクスポージャーのコントロール等を目的として為替予約取引等を活用する場合があります。公社債の組入比率は高位を維持することを基本とします。組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主 要 運 用 対 象	欧州主要国（ユーロ参加国）の公社債を主要投資対象とします。
主 な 組 入 制 限	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。

### ○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		シティEMU国債インデックス (円ベース)		債 組 入 比	券 率	債 先 物 比	券 率	純 資 産 額
	期 騰 落	中 率	期 騰 落	中 率					
(設定日)	円	%		%	%		%		百万円
2014年12月11日	10,000	—	244.93	—	—		—		970
1期(2015年5月15日)	9,408	△5.9	227.41	△7.2	96.9		—		1,031

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) シティEMU国債インデックス（円ベース）は、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、EMU（経済通貨同盟）参加国の国債の総収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

(注) 外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		シティEMU国債インデックス (円ベース)		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	券 率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率			
(設定日) 2014年12月11日	円	%		%	%	%	%
	10,000	—	244.93	—	—	—	—
12月末	10,030	0.3	245.23	0.1	95.3	—	—
2015年1月末	9,412	△5.9	228.31	△6.8	96.3	—	—
2月末	9,545	△4.6	230.79	△5.8	96.2	—	—
3月末	9,449	△5.5	226.06	△7.7	92.4	—	—
4月末	9,463	△5.4	228.72	△6.6	94.1	—	—
(期 末) 2015年5月15日	9,408	△5.9	227.41	△7.2	96.9	—	—

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 騰落率は設定日比。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

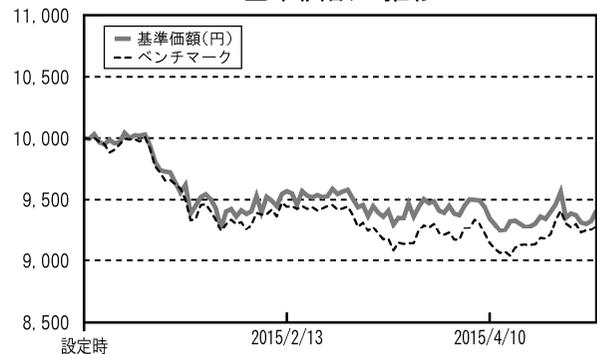
◎基準価額の動き

基準価額は設定時に比べ5.9%の下落となりました。

◎ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(－7.2%)を1.3%上回りました。

基準価額の推移

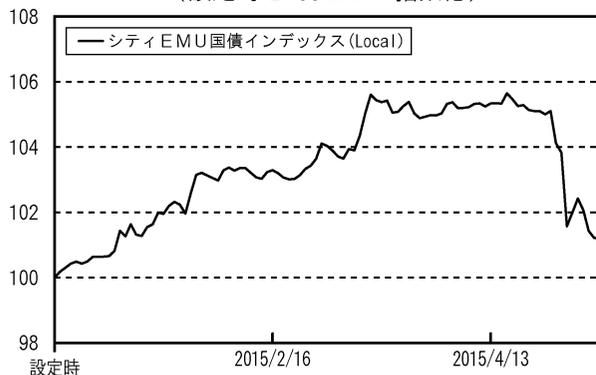


(注) ベンチマークは設定時の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●投資環境について

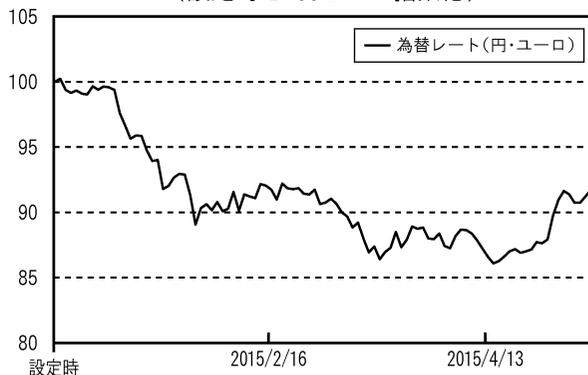
債券市況の推移

(設定時を100として指数化)



為替市況の推移

(設定時を100として指数化)



◎債券市況

- ・欧州長期金利は小幅低下（債券価格は上昇）しました。2015年1月のECB（欧州中央銀行）理事会で国債買取りを中心とした資産購入プログラムが決定されたことなどから長期金利は低下し、ドイツの長期金利は一時過去最低水準を更新しました。その後、2015年4月下旬に発表されたドイツの消費者物価指数が市場予想を上回ったことや3月のユーロ圏民間部門向け融資が3年ぶりに前年比プラスに転じたことなど、ユーロ圏で物価が上昇しつつある兆候が見られたことなどから長期金利は大幅に上昇しました。

◎為替市況

- ・ユーロは対円で下落しました。域内のディスインフレーションの台頭やECBによる前記資産購入プログラムの決定などから円に対して下落しました。

- 当該投資信託のポートフォリオについて  
基準価額は設定時に比べ5.9%の下落となりました。
- ・欧州主要国（ユーロ参加国）の公社債を主要投資対象とし、ベンチマークを中長期的に上回る投資成果をめざして運用を行い、期を通じて債券の組入比率は90%以上で推移させ、期末は96.9%としました。
- ・期を通じて、金利低下を見込み債券デレション（平均回収期間や金利感応度）をベンチマーク比長めで維持したほか、周辺国の景気・金融両面の安定から周辺国国債のドイツ国債に対するスプレッド（利回り格差）が縮小すると判断し、イタリア、スペイン、アイルランドをオーバーウェイト（投資比率を基準となる配分比率より多くすること）しました。
- ・当期は、ユーロが対円で下落したことなどにより、基準価額は下落しました。

#### ●当該投資信託のベンチマークとの差異について

当期の基準価額騰落率は、ベンチマークであるシティEMU国債インデックス（円ベース）の7.2%の下落を1.3%上回りました。

（プラス要因）

- ・期中、ECBが景気や物価の下振れリスクに対応して、金融緩和姿勢を維持した結果、欧州での債券デレションをベンチマーク比長めで維持したことがプラス要因となりました。
- ・周辺国の景気・金融両面の安定から周辺国国債のドイツ国債に対するスプレッドが縮小したため、ベンチマーク比でイタリア、スペイン、アイルランドをオーバーウェイト、ドイツ、フランス、オランダなどをアンダーウェイト（投資比率を基準となる配分比率より少なくすること）で維持したことがプラス要因となりました。

#### ○今後の運用方針

##### ◎運用環境の見通し

- ・ECBが国債買取りを中心とした資産購入プログラムを開始したことにより、周辺国を中心に実質金利の低下や債券の期間プレミアムの低下によって長期主導で金利が低下するものと考えています。為替市場では、日銀は「物価安定の目標」の実現に向けて、引き続き強力な金融緩和姿勢をもって臨むものと思われるため、ユーロは対円で概ね堅調に推移すると考えます。

##### ◎今後の運用方針

- ・前記の運用環境の見通しに基づき、金利戦略においては、長期金利への影響が大きい景気その他の諸条件を考慮し、デレションなどのコントロールを行います。また、欧州各国の財政状況や政治動向、政策対応などを重視した国・銘柄選別に注力します。債券の組入比率は高位を維持し、国債中心の組み入れを維持する方針です。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2014年12月11日～2015年5月15日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円 2	% 0.022	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(2)	(0.020)	外国での資産の保管等に要する費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.002)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	2	0.022	
期中の平均基準価額は、9,579円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○ 売買及び取引の状況

(2014年12月11日～2015年5月15日)

## 公社債

			買 付 額	売 付 額
ユーロ			千ユーロ	千ユーロ
外 国	ドイツ	国債証券	2,253	1,429
	イタリア	国債証券	7,923	5,314
	フランス	国債証券	1,902	634
	オランダ	国債証券	280	—
	スペイン	国債証券	4,221	2,446
	ベルギー	国債証券	174	63
	アイルランド	国債証券	908	453

(注) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)

○利害関係人との取引状況等

(2014年12月11日～2015年5月15日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
為替直物取引	1,073	93	8.7	—	—	—

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行です。

○組入資産の明細

(2015年5月15日現在)

外国公社債

(A)外国(外貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
ユーロ	千ユーロ	千ユーロ	千円	%	%	%	%	%
ドイツ	850	833	113,526	11.0	—	11.0	—	—
イタリア	2,170	2,629	358,022	34.7	—	34.7	—	—
フランス	1,100	1,280	174,273	16.9	—	16.9	—	—
オランダ	250	280	38,231	3.7	—	3.7	—	—
スペイン	1,350	1,752	238,643	23.1	—	23.1	—	—
ベルギー	90	111	15,227	1.5	—	1.5	—	—
アイルランド	390	452	61,555	6.0	—	6.0	—	—
合 計	6,200	7,341	999,481	96.9	—	96.9	—	—

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B)外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘柄			当 期 末			償還年月日	
			利 率	額面金額	評 価 額		
		外貨建金額			邦貨換算金額		
ユーロ			%	千ユーロ	千ユーロ	千円	
ドイツ	国債証券	0.5 BUND 250215	0.5	850	833	113,526	2025/2/15
イタリア	国債証券	3.75 ITALY GOVT 210501	3.75	780	896	122,096	2021/5/1
		4.5 ITALY GOVT 240301	4.5	940	1,147	156,285	2024/3/1
		4.5 ITALY GOVT 260301	4.5	240	297	40,464	2026/3/1
		5 ITALY GOVT 400901	5.0	210	287	39,176	2040/9/1
フランス	国債証券	1.75 O. A. T 230525	1.75	770	833	113,470	2023/5/25
		3.5 O. A. T 260425	3.5	230	288	39,281	2026/4/25
		4.5 O. A. T 410425	4.5	100	158	21,521	2041/4/25
オランダ	国債証券	1.75 NETH GOVT 230715	1.75	230	250	34,064	2023/7/15
		3.75 NETH GOVT 420115	3.75	20	30	4,167	2042/1/15
スペイン	国債証券	4.7 SPAIN GOVT 410730	4.7	120	158	21,631	2041/7/30
		5.4 SPAIN GOVT 230131	5.4	800	1,025	139,636	2023/1/31
		5.5 SPAIN GOVT 210430	5.5	210	263	35,852	2021/4/30
		5.9 SPAIN GOVT 260730	5.9	220	305	41,523	2026/7/30
ベルギー	国債証券	2.6 BEL GOVT 240622	2.6	50	57	7,844	2024/6/22
		4.5 BEL GOVT 260328	4.5	40	54	7,382	2026/3/28
アイルランド	国債証券	2.4 IRISH GOVT 300515	2.4	110	120	16,359	2030/5/15
		3.4 IRISH GOVT 240318	3.4	280	331	45,196	2024/3/18
合 計						999,481	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

○投資信託財産の構成

(2015年5月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 999,481	% 67.8
コール・ローン等、その他	475,394	32.2
投資信託財産総額	1,474,875	100.0

(注) 期末における外貨建純資産(1,016,481千円)の投資信託財産総額(1,474,875千円)に対する比率は68.9%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1ユーロ=136.14円		
--------------	--	--

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2015年5月15日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,474,875,240
コール・ローン等	23,484,589
公社債(評価額)	999,481,407
未収入金	441,463,493
未収利息	5,189,401
前払費用	5,256,350
(B) 負債	443,499,741
未払金	443,466,942
未払解約金	32,799
(C) 純資産総額(A-B)	1,031,375,499
元本	1,096,243,103
次期繰越損益金	△ 64,867,604
(D) 受益権総口数	1,096,243,103口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,408円

<注記事項>

①設定元本額	970,275,000円
期中追加設定元本額	172,857,007円
期中一部解約元本額	46,888,904円

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

三菱UFJ 欧州債券ファンド<為替ヘッジあり>(毎月決算型)	1,064,614,799円
三菱UFJ 欧州債券ファンド<為替ヘッジなし>(毎月決算型)	31,628,304円
合計	1,096,243,103円

③純資産総額が元本額を下回っており、その差額は64,867,604円です。

○損益の状況 (2014年12月11日～2015年5月15日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	12,573,682
受取利息	12,573,682
(B) 有価証券売買損益	△69,520,035
売買益	27,797,238
売買損	△97,317,273
(C) 保管費用等	△ 223,801
(D) 当期損益金(A+B+C)	△57,170,154
(E) 追加信託差損益金	△ 9,808,401
(F) 解約差損益金	2,110,951
(G) 計(D+E+F)	△64,867,604
次期繰越損益金(G)	△64,867,604

(注) (B) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みません。

(注) (E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) (F) 解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。